

上余白 19mm

約 10mm のスペース

木材利用研究発表会講演概要集・木材利用 研究論文報告集 和文原稿作成例

約 15mm のスペース

ゴシック, 20pt

木材 太郎¹・土木 次郎²・John SMITH³

12pt

約 5mm のスペース

¹正会員 土木大学教授 工学部土木工学科 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目無番地)
E-mail: mokuzai@jsce.ac.jp

²正会員 土木建設株式会社 技術開発部 (〒160-0004 東京都新宿区三矢六丁目 13-5)
E-mail: doboku@jsce.co.jp

³Member of JSCE, JSCE Corp.

約 10mm のスペース

9pt

9pt

このファイルは木材利用研究発表会講演概要集と木材利用研究論文報告集の原稿（和文）を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。それと同時に、原稿そのものの体裁（A4）をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

この要旨を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右 1 cm ずつ狭くします。要旨のフォントは明朝体 9 pt を用いてください。要旨の長さは 350 字以内です。要旨の後に 1 行空けて、キーワードを 5 つ程度、Times-Italic 10pt のフォントで書いて下さい。

約 5mm のスペース

Key Words: times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

ボールドイタリック, 10pt

約 10mm のスペース

イタリック, 10pt, 最大 2 行

タイトル部分の余白は 10mm 余分に

タイトル部分の余白は 10mm 余分に

左余白 20mm

右余白 20mm

1. タイトルページ

ゴシック, 11pt

タイトルページは 2 つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分：横 1 段組（題目、著者、所属、連絡先住所、E-mail アドレス、アブストラクト、キーワード）
なお、E-mail アドレスは、必ず単独行としてください。

(b) 本文部分：横 2 段組

レイアウトで横 2 段組に設定します。段と段との間のスペースは約 6mm とします。

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。

明朝, 10pt

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

すべてのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺 19 mm, 下辺 24 mm, 左右ともに 20 mm に設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ 10 mm ずつ大きくとって下さい。すなわち、A4 用紙の幅に対して左右それぞれ 30 mm ずつのマージンをとります。そして以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 20 pt フォント、センタリング
(約 15 mm スペース)

著者名：明朝体 12 pt フォント、センタリング
(約 5 mm のスペース)

著者所属：明朝体 9 pt フォント、センタリング
E-mail アドレス：明朝体 9 pt フォント、センタリング
(約 10 mm のスペース)

アブストラクト：明朝体 9 pt フォント
キーワード：Times - Italic, 10 pt, 5 つ程度、2 行以内
著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。**'Key Words'** という文字はボールドイタリック体にします。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 10 mm のスペースを空けてください。

本文は 2 段組で、左右のマージンは 20 mm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。

(3) フッター

木材利用研究発表会講演概要集の原稿を作成する際は、ページ番号を入れません。フッターを削除して下さい。木材利用研究論文報告集の原稿を作成する際は、すべてのページの下辺中央にフッター機能を使ってページを入れます。ページ番号は暫定的にタイトルページを第 1 ページとして付けて下さい。

9pt

1

講演概要集原稿：ページ番号を入れない
論文報告集原稿：ページ番号を入れる

下余白 24mm

2. 一般ページ

第2ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

ページの変わり目以外は通常2行あける

3. 見出し(見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す)

1行あける

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節、項の3段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2.などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を2行、下を1行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来よう調整してください。

1行あける

(2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、(4)などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 項の見出し

項の見出しは、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式(1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 C_D , $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

ゴシック, 9pt

明朝, 9pt

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

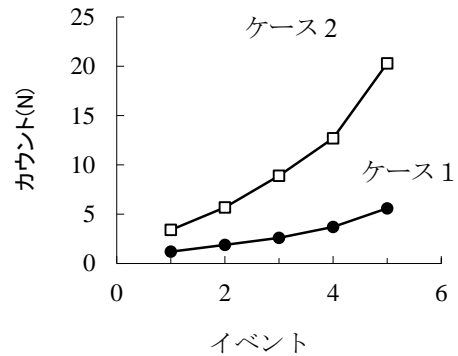


図-2 図のキャプションは図の下に置く

1行ないし2行あける

5. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1~2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はそのすべてを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

なお、論文報告集の原稿には、参考文献リストのあとに1行空けて、論文集編集小委員会のWEB ページで指定された受付日と受理日を右詰めで書いてください。講演概要集の原稿には、日付の記載は不要です。

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を10 mm ずつ狭くします。

ゴシック, 10pt

謝辞: 「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

- 1) 本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.
- 2) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編, pp.110-119, 1996.
- 3) Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans. AGU.*, Vol.31, No.2, 1950.
- 4) C. R. ワイリー (富久泰明訳): 工学数学 (上), pp.123-140, プレイン図書, 1973.
- 5) Smith, W.: Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.
- 6) 本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.
- 7) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編, pp.110-119, 1996.
- 8) Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans. AGU.*, Vol.31, No.2, 1950.
- 9) C. R. ワイリー (富久泰明訳): 工学数学 (上), pp.123-140, プレイン図書, 1973.
- 10) 木材太郎, 土木二郎: 木製折り畳み式橋梁の展開機構と模型試作, pp.108-112, 木材利用研究発表会講演概要集 17, 2018.

